

組織拡大に全力を!

2012年12月3日
No.71

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

「あおの統一候補」信任へ!

東北大学学生自治会 執行部選挙の投票進む



委員長候補・青野弘明君

11月29日(木)から東北大学学生自治会執行部選挙が始まり、2日目(30日)が終了した時点で計257票集まっています。多くの学生が注目する中で行われた『11・27東北大一日行動』が、次期の学生自治会執行部への興味・関心をつくり出しています。

自治会執行部選挙に立候補した『あおの統一候補』(委員長候補=青野弘明君・医学部1年)への学生の注目はすごい! 教室や食堂では『あおの統一候補』

の話題で持ちきりです。「頑張って下さい」「不信任にする理由がない」と声をかけてくれる学生。「自治会の言っていること、基本的に世論の声だよ」と友人と話しながら歩く学生も。

世間は衆院解散一総選挙。「極右か体制内か」の選択肢しかない選挙に、誰もがうんざりしています。情勢は煮詰まっています。学生の怒りを、もはや資本主義や議会の枠内に押し止めることはできません。今こそ、巨大な学生運動をつくり出す大チャンスです! 『あおの統一候補』は、全国の仲間とともに最前頭に立って闘います。残り5日間の選挙戦を最後まで頑張るので、応援よろしくお願いします。 <東北大学・J>



応援演説を行う京大生・富山君



生協前の昼休み投票所

「あおの統一候補」の立候補声明

※キャンパスでまかれている「あおの統一候補選対本部」ビラより転載

大学が、権力を持った一握りの教授や大企業の経営者たちによって私物化されつつあります。その結果、大学が彼らの利益のために利用され、学生の自由や権利が奪われています。私たちは大学が教育機関である以上、その主人公は学生であるべきだと考えていますが、それとは異なる現実が様々な場面で見られます。私たちはそうした状況を東北大生のみなさんと団結して変えていきたいと思えます。

こうした思いを込めて、「大学の私物化反対！大学の主人公は学生だ！」というスローガンを掲げて立候補しました。ぜひ、「あおの統一候補」に信任の「○」をよろしくお願いします。

「内規」適用を粉碎！

大学当局によるサークル活動規制の強化が、日一日と進められています。今年の7月26日、大学当局によって秘密裏に「学友会全学協議会」なるものが開かれ、今まで学生が担ってきた部室配分権を大学当局が剥奪するという「決定」をしました。これは要するに、「内規」に反対するサークルから部室を奪おうということなのです。これまでサークル員をはじめとした全学生の力で阻んできた「内規」の全面適用へ踏み込んできたということでしょう。

今、東北大には全国の大学が目を見張るような自由なサークル活動があり、1サークルが1つの部室を持ち24時間好きな時に部室が使えます。私を含め東北大生は当たり前前に享受していますが、ここまで学生が主体で行われているサークル活動は全国でもなかなか類がありません。

しかし、「内規」が全面適用された場合、サークル棟は朝8時半から夜9時までしか使えなくなり、土日は部室が使用不可になります。また複数のサークルが1つの部室を時間決めや曜日決めなどで一緒に使う「大部屋共用方式」という制度になります。現在、新課外活動施設なるものが川内北キャンパスのプールを潰した跡地に作られ始めていますが、この建物は大部屋共用方式で運用される予定であることが発表されています。部室が全く足りていないのにもかわらず、です！

2004年に「内規」が発表されてから、この8年、全面適用は未だなされていません。これは歴史的に文化部サークル協議会と学生自治会のもとに全学生が闘って防いできたからに他なりません。当時の学生自治会は、運動の先頭に立って、59サークルと51クラスから反対決議をあげ、大学当局に学生の意思を叩きつけて自由なサークル活動を死守しました。

何も行動を起こさなくては、間違いなく近いうちに「内規」全面適用の流れになるでしょう。私たちは「内規」全面適用絶対阻止の闘いの最先頭に立ちます。

キャンパスを反原発の砦に！

大学が原子カムラの一環に組み込まれていると言われるようになって随分時間が経ちました。東北大学も例外ではありません。経営協議会の一員である東北電力会長の高橋宏明は今年4月の東北大新聞で「女川原発を再稼働させたい」とぬげぬげと仰いました。女川原発はそもそも老朽化で安全が危ぶまれている原発である上に、震災によって内部がズタボロになった原発であり、即廃炉が当然な原発です。彼の主張は、原発は動かせば電力会社が儲かるので安全性に不安が残っていても再稼働したいということであり、露骨なまでの利益優先主義です。

原発を全国に54基つくるには、大学の力が不可欠でした。だか

ら大学の上層部には、電力会社や電気メーカーと共に天下り官僚が入り込んでいます。そうやって長年、大学は原子力業界に牛耳られてきたことが、3.11以降、全社会的に暴露されました。これは大学の私物化の最たるものであり、その結果が昨年の福島第一原発の重大事故の背景にあると思えます。

反原発運動が日本全国で爆発しています。私も参加しましたが、今年の7月16日に代々木公園で17万人が原発反対の声をあげて結集しました。そして毎週金曜日には万の数の人々が「再稼働・新規建設反対！」「フクシマの人たちを守れ！」と首相官邸前をはじめ、全国で抗議の声を上げています。仙台でも毎週金曜日に官邸前抗議行動に連帯する「脱原発みやぎ金曜デモ」が行われており、私たちも一緒になって運営に関わっています。これから地域・全国の原発反対の行動と共闘してキャンパスの内外で反原発運動を貫きます。

大学の私物化を弾劾する

大学とは権力に屈さず、最も公共に開かれ、人々の幸福に寄与するために本来あるべきものです。しかし現在の大学は「教育の民営化」の下で、資本の論理に牛耳られ、大企業や一握りの資本家の付属品という扱いを受けています。

これまでも原発に限らず、資本に学問を切り売りした弊害の例は尽きません。1956年熊本県の水俣湾で発生した水俣病の場合、原因がチツソの工場の排水に含まれる有機水銀ではないかと疑われた際に、当時の業界団体と通産省、そして、チツソから多額の研究費を受け取った東大の「知識人」らが、「原因は腐った魚を食べたせいだ」と強固に主張し、その結果、被害を深刻化させました。圧力に屈さず有機水銀説を唱えた大学の研究室には国からの予算がストップしたそうです。

首都大学東京理事長の高橋宏が語った「大学は学生という原材料を仕入れ、加工し、卒業証書という保証書をつけて企業に出す」という言葉に象徴されるように、大学が私物化される中で、学生はモノとして見られて未来さえ奪い尽くされています。授業料の高騰に伴って、バイト漬け、奨学金の借金まみれにされた挙句、卒業しても若者の半分以上が非正規職という地獄のような新自由主義が蔓延した社会が待っています。

資本主義が破産し、非正規職と過度な競争原理が学生に余儀なくされています。そして、他人より少しでも上に行くための蹴落とし合いがあらゆる場所で強制されており、その波は大学にも及んでいます。

このような時代だからこそ学生の団結体である学生自治会の存在に意義があると考えます。今こそ学生は大学のあり方を問わねばなりません。

東北大では2000年に、当時の学生自治会が国立大学法人化(=教育の民営化)に反対して全学ストを貫徹しました。こうした力が東北大生の根底にはあり、それが今なお「内規」を貫徹させていないのだと思います。私たちは「教育の民営化反対！」の声をこれからも訴えていきます。

また、そうした活動を通して、私たちは東北大学という枠組みを乗り越えて法政大や京都大、広島大、福島大など他にも様々な大学の学生や労働組合や市民の皆さんと連帯して闘っていきます。私たちは2013年、東北大生の先頭に立って闘い抜きたいと思いません。是非、信任の「○」を、よろしくお願いします。